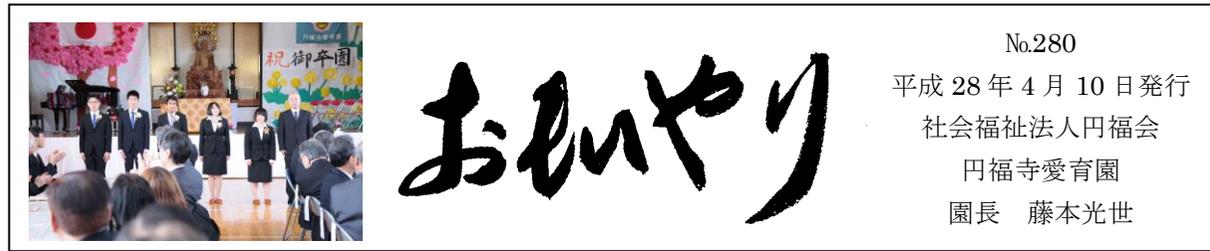


卒園式を挙行了しました。5名の児童が高校を卒業して巣立っていきました。



子どもが成長する施設（卒園式パンフレットより）

園長 藤本光世

平成27年度は、5名の児童を、高校を卒業させ、卒園させることができました。

先日、ホテル信濃路で開催した、卒園を祝うディナーバイキングで、全員の卒園児が高校に入って大きく成長したことを、自分の言葉で話してくれました。私たちが見ても、彼らの成長には目の見張るものがありました。（彼らの成長の様子は『圓福』4月号のにこにこ法話と、『おもいやり』今月号の卒園児童の言葉をご覧ください。）

5名の卒園児のうち3名は高校3年間皆勤です。残りの2名の児童も欠席はほとんどありませんでした。MN君の信州大学合格、MSさんの玉姫殿就職、稲荷山養護学校の3名の児童の就職と2名の児童の自動車免許取得（『おもいやり』1月号に書いたように、宮坂校長先生のご英断により、1月になって自動車学校に通うことが出来ました。効果測定、仮免許取得、卒検、本免試験といくつかの関門を、失敗しながらも乗り越えて一人は3月22日に免許取得、もう一人は3月29日に免許を取得することが出来ました。二人とも円福寺愛育園に在籍中に免許取得ができて、本当にうれしく思っています。）は、その結果であります。円福寺愛育園は児童の可能性をとことん伸ばして、夢の実現ができる児童養護施設になりました。彼らはその初めての成果を事実で表してくれました。

8年前の平成20年度の大混乱から、どのようにしてこのように再生したのでしょうか。私は『愛の花園』を再読して、8年間を振り返ってみました。（その詳しい内容は『愛の花園 平成27年度実践の記録』の巻頭言に書きました。5月には刊行できます。関係者にお送りいたしますので、ご覧ください。）彼らが、中学3年生の平成24年に青谷副園長が就任しました。石崎保育士がホーム長主任保育士になりました。ここから愛育園は劇的に変わったのです。副園長と主任保育士の児童のための、体調を崩すほどの献身的な養育があり、二人を支える職員がいて、奇跡のように変わったのです。（奇跡の具体的な内容は、平成24年度『愛の花園』17pに書きました。そこには、5回も『奇跡である』と書いています。）その養育を受けて、子どもたちは大きく成長し、人生を切り拓く力をつけたのでした。心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。4年間の養育でこのことが事実として表れたのです。

今年は、児童の問題行動はほとんどありませんでした。子どもたちは施設を大切に使うてくれて、児童棟の修繕もほとんどありませんでした。みんな愛育園が大好きになりました。みんな「夢」をもって、勉強に取り組んでいます。みんな皆勤賞を目指して通学しています。8年前の大混乱を思うと、夢のようです。当園は児童を成長させ、児童の夢を叶える施設として、ますます立派な子どもたちを輩出することが出来るでしょう。

ここまで愛育園が良くなってきたのも、当園を温かく見守ってくださった、社会福祉法人円福会役員の皆様、西横田の役員の皆様や住民の皆様、大勢の支援者の皆様のおかげでございます。ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

とはいっても、卒園生は、大変厳しい運命の中に置かれています。これまでは、愛育園は親鳥が羽で雛を抱くように、児童を守ってきました。卒園児はこれから一人で生きていかねばなりません。私は彼らが置かれた厳しさを思うと、祈らずにはいられません。これまで大勢の卒園生が失敗してきた道を、皆さんは決して歩まずに、強い心で進んでもらいたいと切に祈ります。私たちはその心を持ってくれるように精一杯、全力で育ててきました。心底から分かって欲しいと思います。

関係者の皆様には、愛育園の卒園生たちを温かく、そして時には厳しく見守ってくださいますようお願いいたします。



卒園式

副園長 青谷 幸治

今年は5名の卒園生を送り出すことができました。毎年、卒園式の雰囲気は良くなり年間が一番重要な行事に位置づけられてきました。子どもたちにとっても愛育園の卒園式で自分の成長をお別れの言葉とともに発表できることは今やステータスとなっています。

卒園式の1か月前から出る子どもを送り出す子も寂しさで充滿していました。子どもたちが愛育園での生活を通して自分のために愛育園のために目標をもち、そして成長してきたことが愛育園への愛着につながり、そして学校とは違う第2の学び舎になったと今年の卒園式で感じました。ようやく愛育園が純粹で素直な子どもたちを育てられる環境になったとこの卒園式で実感できました。



私は昨年までの卒園式とは違う愛育園の養育を確信することができました。また新たな一年がスタートします。卒園生の皆さん。自分のために人生を切り拓き、立派になった姿を見せてください。そして来賓の皆様方。お忙しい中、卒園式のご出席いただき誠にありがとうございました。

卒園式

まごころ・そよかぜホーム長 石崎早織

1年経つのは本当に早いもので、あっという間に3月を迎えました。今年円福寺愛育園から卒園する児童は5名います。その中でもまごころホームからは2名の児童が卒園していきました。ここ最近私は卒園生の担当を持つことが多かったのですが、今年は担当児童の中に卒園生はいなく、またいつもとは違う想いで卒園式を迎えました。毎年この時期になると、卒園生は新生活の準備等で慌ただしくなり、園全体が卒園式モードに変わりますが、今年はなんだかいつもとは違い、卒園式を迎えるまで、中々実感が湧きませんでした。

ある時、卒園生のMさんと新生活の準備を進めながら話をしているとMさんも私と同じ気持ちで、まだ卒園する実感が無い！！と言っていました。なんでかな～？と考えながら青谷先生にこの話をしてみました。すると、青谷先生からは卒園生が愛育園に対しての気持ちが年々増してきていることで、愛育園に愛着が湧いてきている事や、その気持ちに嘘がないからではないかという話を

聞きました。その話を聞いたとき、今年の卒園生の生活を見ている、愛育園が大好きな気持ちが伝わってきますし、卒園することを心から寂しいと本気で思っている気持ちが伝わってきました。そういった気持ちを持てるようになった子ども達の姿をみると、本当に心が成長したことを感じます。私が今年の卒園生に会ったのは今から8年前。まだ子ども達は小学生でした。あの頃を思い出すと、今とはまったく違い、少し嫌な事があると楽な方へ・・・という姿勢がどの子にも見られました。でも今は違います。課題があれば職員と相談し一つ一つ乗り越える力が付いてきました。また何かをやり遂げた時の達成感を味わえるようになりました。色々挙げていくときりはありませんが、それだけ子どもは成長したんだと私自身も感じる事ができます。そんな5名なら社会へ出て大丈夫！！愛育園でやってきたことをこれからも継続し、立派な社会人になってほしいと思います。

卒園生を送り出して

保育士 富沢正樹

3月21日、卒園式が行われました。

あおぞらホームからは、高校3年生児童3名が、卒園しました。3名とも、自分たちの進路をそれぞれ決めて、園を卒園していける事を私はとても嬉しく思います。3名のうちの、稲荷山養護学校に通っていたK君は、4月から、オリオン精工で働くことが決まっています。彼は、高校に入ってから3年間、とても大きく成長しま



した。それまでは、なかなか自分の主張や意見を言葉にすることができず、目標や生活の事などは職員に決めてもらう事が多く、進路についても、当初は、学校から提示された会社で実習を行い就職する予定でいました。ですが、実習を経て、K君は私の所へ来て、「自分は一般就労を目指したい。もう少しレベルの高い事に挑戦したい」と話してきました。それまでのK君では、考えられない発言にびっくりしつつ、改めて、就職予定先を検討しなおして、見事にオリオン精工への就職を決めました。また、運転免許の取得にも挑戦して、こちらも見事に合格する事ができました。地道に努力をして、自信をつけ、自分の道を自分で切り開いていったK君を本当に立派に思いました。その成長した姿は卒園式での堂々とした振る舞いにも表れており、私も感動しました。その他の4人も皆、園を出ていくさみしさはありながらも、これから始まる新生活に期待をもって園を卒園していく様子が見られ、毎年、こんな卒園生を送り出せたらいいな。と思いました。私自身も、4月から、また新たな気持ちで在園生と新たな生活をしていき、良い一年間にしていきたいと思います。

卒園生を送り出して

保育士 近藤 典雄

今年の卒園式では5人の児童を送り出しました。その中のK君は私が昨年の10月から担当として受け持った子でした。今回の卒園生の中では担当としての期間が一番短いこともあり、色々と至らないところもあり沢山の人の迷惑をかけてしまい、K君にも迷惑をかけてしまったことも多々ありました。

K君との出会いは私が入社してきた三年前、K君が高校に入学したときでした。K君は普段は文句ばかり言って中々素直に受け止められない子でした。でも本当は優しい子で、困っている人がいると自然と助けに入ってくれたり、文句を言いながら



も先生手伝いをやってくれたり本当に助けられることも多かったです。進路が決まって4月から務

めることになったK君ですが、卒園式の間では堂々と皆の前で今までの園の生活に感謝の気持ちを伝える事ができ、最後まで立派に式を終えることが出来たと思います。担当としての期間は短いものでしたが、この日を向えて今まで色々苦勞をかけた、かけられたり、いい事も悪い事も沢山思い出し思わず涙が出てしまいました。

そんなK君も4月からは社会人としての第一歩を踏み出します、今まで園で生活して来た事を忘れずに、私がK君と出会って成長できたように、K君も沢山の人の出会いでまた一歩大きく成長できる事を心から祈っています。

卒園児を送って

保育士 上原美恵子

中学3年生から4年間担当してきたHさんをいよいよ送り出す日がやって来ました。人生で一番多感とも言える成長期の4年間ですから思い返しても本当に様々な事がありました。Hさんが思うようにならないことで落ち込んで肩を落としている時に、何とか支えたいと必死に話をしたことや、感情のままに行動してしまう彼女に対して、自分の人生を大切にすることを私自身が思いつく限りの言葉で伝えようとしたこと等思い出は尽きません。

この一年間は特に愛育園が目標にしている自立に向けて、具体的に卒園児ですから、就職先、生活の場をしっかりとさせることが一番の目標でした。幸い就職に関しては、高校在学中から実習を重ねていた企業がHさんの働く力を認めて下さり、3月始めには内定をいただくことが出来ました。生活する場所についてもHさんはグループホームを希望していた所、たまたま就職先の近くで空きが見つかり荷物も少しずつ運び込んで新生活への準備も順調に進めることが出来ました。

卒園式当日、真新しいスーツ姿のHさんにただただ感激で涙が止まりませんでした。卒園生としてのスピーチも、彼女には精一杯だったと思いますが、落ち着いて発表でき彼女の思いが真っ直ぐに伝わってきました。そしていよいよ最後に担当からのメッセージを伝えました。とにかく素直な心と、何でもありがとうと言う感謝の気持ちを大切に一步一步歩いてほしいことを話しました。「幸せになってね」と私自身精一杯の



思いでそっとHさんの肩を抱きました。Hさん卒園おめでとう。これからも応援しています。

卒園児童お別れの言葉 MS

私は中学三年生の時に愛育園に来ました。それから、4年という月日が流れました。去年私は、在園生として送る言葉を読みましたが、今はこうして、卒園生としてこの場に立ち、皆さんにお別れの言葉を読んでいることが不思議に感じます。特に、高校三年間はあつという間で、卒業した実感がありません。園の行事一つ一つも「今年で最後なんだね」と話しながらも、本当に今年で卒園!?!と感じていました。それくらい充実した学校生活と愛育園での生活を送ることができました。けれど、私がこのような生活を送ることができたのは、担当の青谷先生、ホーム長の石崎先生のおかげです。

4年前の私は、人と関わるのが苦手な人で、人との関わりを避けていました。嫌なことがあれば、すぐに周りの雰囲気悪くし、時には、先生たちにひどいことを言い、傷つけてしまうこともありました。けれど、私はそんな自分を変えるために愛育園に来たので、青谷先生とたくさん何回もお話をしました。夜遅くまで、私の話を聞いてくれた時もありました。そこで青谷先生に言われたのが、「自分のために一生懸命になっていないから、自分に自信を持つことができない」ということでした。だから目標を持つこともできないし、人の気持ちを考え行動する余裕も持つことができませんでした。その時、まだ高校一年生だった私はまず、目の前にあることをしっかりやろうと思いました。最初の時は友達を作ろうとしても上手くいきませんでした。授業や部活、生徒会活動を一生懸命やっているうちに、周りは常に笑顔で明るい友達がいるようになりました。また、テストでは今までとったことのない高得点や、部活動の部長など、一年生でたくさんの経験をすることができました。一つ一つの物事に、目標をもって行動することは大切だなと思いました。そして二年次では、高校生活にも慣れ、バイトも始まり少し生活や気持ちに余裕ができてしまいました。ですから、園での生活が乱れたり、平気で嘘をついたりなど、困らせることをたくさんしてしまいました。けど、その時も青谷先生は、今の私の行動は、将来の自分に役立つことなのかと、自分自身で考えるチャンスを与えて頂きました。青谷先生は私の将来のことを常に心配してくれました。けれど、私はまだ、自分に自信がなく、中々話に行かれずただ時間が流れるばかりでした。そんな時、ホーム長である石崎先生が優しく私の気の済むまで話を聞いてくれました。その後にはアドバイスをしてくれて、一緒に話にも行ってくれました。本当に心強かったです。また、普段の生活行動の中でも、細かいところにまで気づき、私に注意や助言もしてくれました。言われている時はうるさいなあと思ってしまったこともあるけれど、後々いつも先生の言う通りだなあと感じていました。二年生は、私の将来に対して心の変化が一番大きかった一年だったと思います。この年の三学期の通知表では、オール5を初めてとり、園長先生は泣いて喜んでくれました。その姿を見て頑張っていたと私も嬉し泣きました。

そして三年生のこの一年間は、一・二年生で学んだことの積み重ねがあり、自分に少しずつ自信

を持つことができ、一番充実した最後の高校生活でした。学校では、生活整美の委員長という生まれて初めて人の上に立つ責任がある役職を任せられ、とても不安でした。この時も私は青谷先生に、「人の上に立つのは難しい」と相談しました。皆が皆私と同じ考えを持っている訳ではないので、どうしたら委員の皆に分かってもらえるのかを聞きました。青谷先生はやっぱり、「とにかく人に言う前に自分が一生懸命やりなさい。そうしたら周りの人はついて来てくれる」と言いました。今思えば三年間同じことを言われ続けてきたんだなあと思います。青谷先生の言葉で私は頑張ることができました。私は坂城高校が本当に大好きです。だから学校をきれいにするために、清掃の委員長ができて誇りに思っています。

園での一番の思い出は、やっぱり夏の球技大会です。すごい暑い真夏のこの体育館で、皆の心を一つに頑張った中高女子卓球。監督の石崎先生を中心に、大きな声を出して、ラリー上手くできなくても何回も頑張って汗流したね。SとRは初めてなのに日々上達して行って本当びっくりしました。Yはラリー上手くいなくても途中で諦めず涙流して頑張ったね。Nは、スマッシュとかブロックなど成功した時の笑顔良かったよ。Mは失敗したら次へ次へと前へ進んでいったね。Hのバックは最強でした。Kちゃん今年の卓球頑張って!!石崎先生、本当毎日毎日練習でも大きな声出して試合でも「そこだよ!そこ。!!」とビシッと伝えてくれて、すごい強い監督でした。皆、私についてきてくれてありがとう。支えてくれてありがとう。今までで一番良いチームでした。ぜひ今年も更に良いチーム目指して頑張ってください。まだまだ愛育園の皆と過ごした思い出はたくさんありますがこのくらいにしておきます。



私は4月から玉姫殿で働きます。働き始めれば大変なこともたくさんあると思いますがそんな時こそ笑顔でいられる人でありたいです。これも青谷先生から教わりました。

「笑顔でいれば良いことがある。」本当にその通りで、笑顔でいて良かったと思えることがこの4年間でたくさんありました。

愛育園ではたくさんのお話を学びました。社会に出て教わったことを生かし、しっかり働いて人間として成長していきたいと思っています。最後になりましたが、4年間本当にお世話になりました。

た。ありがとうございました。

愛育園での思い出 KO



僕は 2 歳の時にこの円福寺愛育園に入りました。僕は入った時から小学生に上がる前までは一言も喋りませんでした。でも今になってはどうしたんだと言うくらい喋るようになりました。そして僕は小学生になってから走ることが好きになって僕は休み時間になる度に走りに行っていました。それで僕は中学になってから陸上部に入り毎日大変な日々でした。僕は一年生から三年間続

けたけどタイムは伸びず大会の時には良い成績が残せず、僕は陸上なんてもういいやと思ったこともあったけど、施設運動会ではマラソンがあり、そこでは練習の時から当日まで園の先生たち時には厳しく最後まで本気で応援をしてくれました。そのおかげで中学最後のとこで見事一位を取ることが出来ました。その時は自分も驚いたけど園の先生たちはもっと驚いていて僕によく頑張ったなと言ってくれました。そのことがきっかけで、高校に入っても頑張り、合わせて四連覇することが出来ました。高校では部活動がありませんでしたが僕はあきらめず学校行事での陸上の大会があると聞き、陸上の大会に参加しようと思いました。そして大会前までは中学の時と比べてとても大変でした。でも学校の先生は園の先生と同じで期待してくれ僕は期待してくれてる先生方と練習に付き合ってくれた先生に一つでも結果で返せたらなと思い 3 年間大会に続けて出て、僕は 1500m と 800m で両方とも一位でした。その時はとても嬉しく教えてくれた先生にもとても感謝しています。それと僕は学校で生徒会の副会長を務めていました。色々と大変な仕事が回って来たけど自分の力にもなり出来ました。裏で支えてくれた先生にもとても感謝しています。

園では沢山の行事があり、どれも楽しかったです。園の行事でも、マラソン大会へ参加しました。特に印象に残っているのが「安曇野リレーマラソン」です。42.195 km を分けあって走りましたが、お互い応援し合ったりサポートが出来ていてこのチームで参加して良かったなと思いました。結果も目標タイムを大幅に上回ることが出来ました。マラソンは社会人になっても続けていきたいと思いました。

そして、4 月からはオリオン精工で働くことになりますが、園での生活でつけた自信を胸に頑張ることが園の先生への恩返しになると思っていますので精一杯頑張っていきます。





園内保育だより

園内保育が閉園いたしました

愛育園では数年間にわたり、未就学児を対象に園内保育を行ってまいりましたが、このたびは幼児数の減少のため、昨年度末をもって一旦、閉園することとなりました。それにより、昨年度末の3/25、園内保育閉園式を行いました。閉園式には園長先生をはじめ、園の多くの先生方、園内保育卒園児のうち、小学1年生、2年生もおいでいただきました。

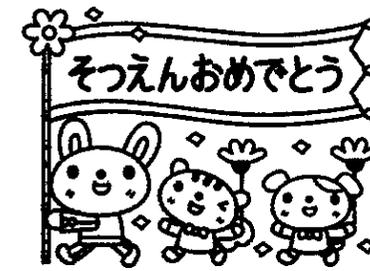
閉園式では、園長先生が園内保育がどのように行なわれてきたのか、園内保育によって子どもたちがどう成長したのかを振り返りながらお話しくださる。また、先述の園内保育の閉園の理由を述べられました。

また、子どもたちより、園内保育を設置してくださった園長先生、園内保育担当のチーム職員、園内保育職員に記念品が贈られ、みんなが「ありがとうの花」を歌いました。



園内保育の卒園児、昨年度の年中児・年少児たちは、それぞれ学校や幼稚園で、たくさんのお友達を作り、勉強や活動を楽しくやることと期待しております。

子どもたちのお散歩や畑の活動時やその往復の際、優しい言葉をかけていただき、温かく見守ってくださいました。地域の方々、園内保育へのご理解とご協力ありがとうございました。本当にありがとうございます。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。園内保育は閉園いたしますが、引き続き愛育園へのご支援をお願い致します。



3/25、園内保育最後の卒園式が行なわれました。この日は、最後の卒園式となることを惜んでいるかのようい、なごり雪が降っておりまして。

平成27年度の卒園児は、男児が2名でした。立派なスーツに身を包んで緊張した面持ちの卒園児たち。深々と頭を下げ、堂々と中、前列とした並びで会場に入場し、卒園式が始まりました。

卒園児は一人ひとり園長先生から卒園証書(保育証書)をいただき、誇らしげに高く掲げました。卒園児2名と歌、た「ありがとう」をこめこ、は、2人バッチを歌、ていると、思えたいほど力強い歌声でした。

その立派な姿は、先生方の感動を呼び、在園児(年中・年少児)の憧れとなりました。

また、皆で「思い出のアルバム」を歌い、「よびかたのことば」で、一年間を振り返りました。卒園児はもちろんのこと、在園児も精一杯歌い、元気にことばを述べており、在園児の成長も見ることができました。

卒園児、在園児ともに大きく成長した一年でした。

結びに、卒園と進級のお祝いを申し上げますとともに、子どもたちの健やかなる成長を、園内保育職員一同、祈念しております。

